

周南市庁舎建設検討市民委員会（第5回） 議事の概要

日時	平成24年12月3日（月） 18時～19時30分
会場	徳山保健センター 3階 講義室1
出席者	委員9名（岡寺委員、熊野委員、佐伯委員、齊藤委員、新本委員、原委員、村越委員、目山委員、矢守委員） 事務局7名（山下企画総務部長、西村総務課長、福本庁舎建設準備室長、杉岡室長補佐、有馬、重國、貞長）、周南市庁舎建設基本計画策定業務受注者日建設計2名
欠席者	委員1名（石丸委員）

1. 開会

2. 先進地視察の報告

（岩国市庁舎訪問について、事務局説明）

委員長：参加した委員から補足があれば。

委員：私自身は非常に参考になった。周南と比較すると、地震がきっかけになったのと防衛施設庁の補助という財源の面で整備をしやすかったと理解。

（配布資料に沿って説明）

- ・1階には売店があり、市民の利便性も考えられている。
- ・免震構造を採用している。建物を軽量化し、ガラスによる近代的で明るいイメージで間仕切りがない。個室は市長、副市長、教育長の3名が持つのみ。
- ・執務空間は一人当たり18㎡。働いている人からみるとスペースは小さく、厳しいが、来庁者や市会議員に面積を割いている点が印象的だった。
- ・EV3台。1台は車椅子対応。
- ・ドーナツ式の形状で真ん中は採光に利用。
- ・喫煙は議員階を除き屋外。
- ・屋上にミニ庭園、太陽光発電。
- ・1、2階の防災対策室は通常は開放。

委員：錦帯橋のオブジェ等があり、見てわかる岩国らしさのアピールが上手だと思った。また、気軽に足を運べ、情報を持って帰られる雰囲気がある。

周南の本庁舎は待つためのスペース少ないが、岩国は待ちスペースのほかキッズスペースがあるなど、空間にゆとりがあった。

緑地や公園があり四季が感じられるのもよかった。自然も取り入れたらいいと思う。

委員：一人当たり面積については数値では割り切れないものがある。岩国は全体の数値的にはゆとりがあるが、執務空間は楽そうではなかった。場合によっては市民空間に張り出すことを可能とするなど、可変性を持たせるのは大事なことだと思う。将来のことはある程度柔軟に考えたらいい。

サイン計画がおしゃれ過ぎて分かりにくいようなところは注意した方がよい。周南らしさで残せるものは残したい。

ガラス張りの外観はおしゃれだが、西日対策でフィルムを貼ったというのは以前から

聞いていた。庇をつくるなど、今後設計での対応を検討する必要がある。環境にも配慮している点はよいと思った。

防災を考えて、理念が『「安心」と「つながり」のまちづくり拠点』であるなら、免震の採用も要検討と思う。

委員長：私も 10 回以上使っているが、1 階に 1 次避難スペースを兼ねた防災拠点がある。議員用の 8 階とあわせると、一人当たり面積は 30 m²くらいになるのでは。

委員：18 m²/人はミニマム、きつい感じはする。

委員：岩国市は庁舎規模をどうやって決めたのか。

事務局：旧総務省の許可基準と聞いている。

3．前回会議の議事の概要について

委員長：前回会議の議事を確認する。

- ・場所は現位置。
 - ・規模は 2 万 m²とし、先進地視察などにより今後も継続検討とする。
 - ・概算事業費・財源は基本計画にて精査
- ということだった。

(事務局説明)

事務局：前回庁舎規模の判断基準を、とのご意見があったが、通路の幅などのほか市民専用の会議室をどうするかなど、導入機能を積み上げていかないと掴みづらい。

基本構想は機能が決まっていないので、規模等は概算で扱うものとして一般的な基準で算出したものをベースとし、来年度精査ということで進めさせて頂きたい。

市民スペース等はあまりここで規定すると、後々の検討の制約になりかねない。

事務局：少し補足を。前回会議資料の 4 ページ目、石丸委員からも指摘のあった長崎県諫早市の 23.2 m²/人の詳細についてだが、ヒアリングによると、別棟が 4 千 m²ほどあり、当初 2 万 2 千 m²で構想していたので、新たに 1 万 8 千 m²をつくったとのこと。これを 775 人で割ると 28.4 m²/人となる。本館に 535 人 別館に 240 人。本館には計画よりは多い人数が入っているようだ。

委員：基本構想資料編には庁舎規模の参考資料は載せないのか。

事務局：延べ床面積や職員数を精査したが若干数値に差違がみられ、幅もあるということで、委員会資料としては出したが、構想としては外そうかと。

4．周南市庁舎建設基本構想（素案）

(修正箇所を中心に事務局説明)

委員：庁舎の規模の比較表を外したことには違和感がある。せっかく岩国市の視察もし、執務スペースは 18 m²/人と限られているものの、目指す庁舎のイメージとしてふさわしいという話もあった。これを抜きにするのはもったいない。他所の数字に波があったりデータが正確でなかったりという判断からだろうが、建設時期によって状況が違ったり職員数は変動したりするのだから、注釈を付けて入れたらよいのでは。基本的なことが極端に違うのであれば、西日本とか瀬戸内海沿岸とか、気候が似ているところとかで地域を限定してもよいのでは。それは恣意的だとは思わない。

資料編の中に入るのが爽やかかと。委員が見学会までして妥当性を認識したという意見もでたので。

委員長：できるだけ出た意見は採用して頂きたい。

委員：あまり参考事例を増やす必要はないかと。話題になった岩国、諫早（修正後）があればよいのでは。周南は過大な方でなく絞り込んだ方を指すというのが分かるなら入れた方がいい。

委員：一人当たりの面積はこうだが、市民のホールがある、などと特徴を書いておいてもいい。事例は1～2箇所でもいいと思う。

委員：視察した成果として。

事務局：延べ床面積に地下の駐車場も入っていたりなど、こちらの想定と違うような例もあり、全部は調べきれないので、分かる範囲で検討したい。

委員：何台分の駐車場を含む、とかのただし書があればよい。分かっている範囲でしかいいようがないと思う。

委員：今後の流れについて、最初に頂いたフローだと、議会説明後にパブコメ？基本構想の体裁は今の素案のとおり？

事務局：その想定。

委員：企画総務委員会の所管事務調査に報告している。明日、今回の部分を報告する。資料は議員にも配布している。

委員長：1月15日にパブコメ、1ヶ月間意見をきいて2月に閉めて最後にまとめるということだった。

委員：パブコメに向けた具体的な作業とは。

委員長：概要版を市の広報に出すということになる。

事務局：アンケートの結果と概要、本編もホームページに載せる。概要版を総合支所等で配布する。

委員：資料編との連携等が分かりやすくなる記載があった方がよい。

事務局：本編に資料編との該当ページなどを記載したい。

委員：「庁舎の場所」の部分など白抜き文字は見えにくいところもあるので配慮を。小さいことだが。

委員：出前トークはどのような形で実施するのか。

事務局：今は庁舎建設の「基本的方針」をメニューとしているが、基本構想素案ができればそれをメニューとして、対応していきたい。

委員：アンケート結果を見る中で、市民に理解をしてもらうにはそういうことが必要と思う。

事務局：これまでの「基本的考え方」を今後は「基本構想」として報告できる。できるだけお声がけして頂いてしっかり説明したい。概要版をつくる必要はあるかと。

委員：興味を持つ人から、現在どういう検討をしているのか聞かれる。視察などまでしていると、経緯のところに加筆頂ければ。

委員：表紙をみてわくわくしない。出来ればだが、理念が最初の方に出てくるなど、イメージが湧くようなことをしてはどうか。見始めるきっかけがほしい。

委員：逆に、パブコメをもって色付けしていくという意味では、意見を言う余地がある、意見が加わって完成していくということを示す意味で白いほうがいいかと。体裁は構想

として出す段階で工夫すればいいのでは。

委員：景観への配慮については、しっかり本編に織り込まれていて良いと思う。

委員：2ページの本庁舎の現状の図だが、感覚的には上が北の方がよい。

委員長：敷地形状からおさまりがよいということもあったのだろう。

委員：敷地形状からはこうする方（今のまま）が見やすいか。

委員：23ページの名簿には事務局も入るべきでは。

事務局：素案は市民委員会からということで、通常は事務局の名前はあまり出さない。

委員長：職員が載るのはあまり見ないが。

委員：発行部署が載ることによいのでは。問い合わせ先が入るイメージ。

委員：違う委員会では事務局も並列だった。環境審議会とか。

委員：委員に職員が入っていることもあるので、そういう場合だったのでは。

委員：事務局でなく行政委員会として出た場合だろう。今回は違う。窓口は記載があってよい。

委員長：連絡先は載せると。検討を。

5. その他

事務局：これからのスケジュールについて、本日までに協議していただき出来た構想の素案を企画総務委員会もしくは全員協議会で12月議会中に報告し、その後1月15日号の広報に概要とアンケート結果、それにパブコメを始める連絡をA3見開きで載せる予定。1月15日から1ヶ月間パブコメを実施し、それを構想へ反映し、市民委員会にはかりたい。

委員長：次回は3月4日。他庁舎の比較を足す、見やすくすることに対応を。また何かあれば事務局に連絡を。

6. 次回委員会日程

委員会の次回開催は、平成25年3月4日（月）18時からとする。